

館山市内で見られる道しるべ

江戸～大正時代の交通標識とその由来

概要

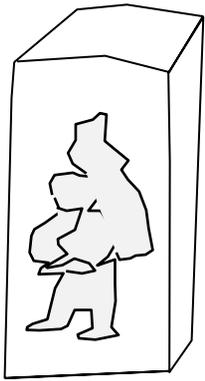
かつて道路上におかれていた標識を、その目的や設置者の違いなどにより、道標・里程標・道路元標けて紹介しています

A: 「道標」=旅人槿を間違えず目的地へ行けるよう道案内に供せられた標柱。何かを祈念するなどの目的に加え交通の利便性の向上のため主要街道と地方道、あるいは地方道と生活道路などが交差する地点や峠、ま瀬礼道の交差点などに置かれていた。行き先の方角や距離などを記してある。江戸時代は多くの民衆が瀬礼に参加するようになり瀬礼道を案内するものが多かった。また目的地へ誘導するものもあった。講中による六地蔵に道標を兼ねたり、廻国塔や出羽三山碑などに兼て建てられたものも多く

B: 「里程標」=明治政府は明治6(1873)年、東京の日本橋、京都の三条橋を起点とした全国主要道の道のり調査を命じ、各県庁所在地に木製の里程元標を設置した。安房郡では明治22年の大合併後の同26年町役場などの要所に設置されている

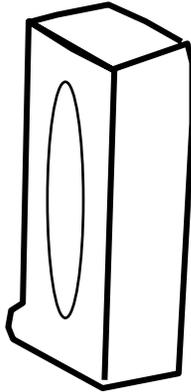
C: 「道路元標」=大正6(1919)年の道路法施行令に基づき全国の市町村の中心的な所に設置され「〇〇町道路元標」と刻まれている路線の起点終点として位置づけられた。

A



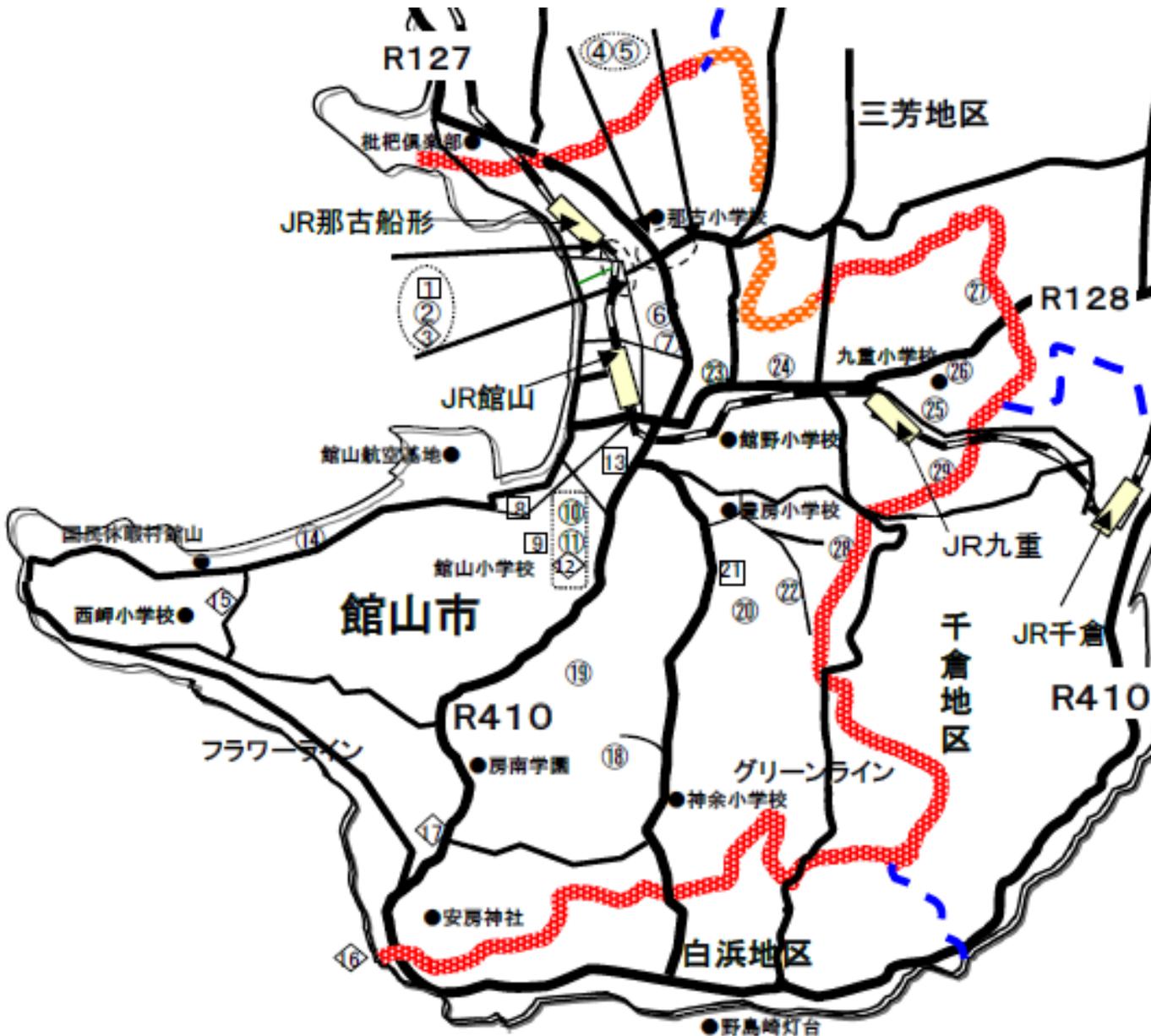
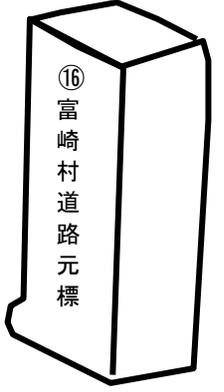
〔11〕博物館屋外展示場 道標
 (右面) 北国分寺道
 (正面) 宝曆八年六月吉日
 (左面) 了道信士
 南一之宮道
 施主嶋田久志郎

B



〔1〕ドンドン橋脇 里程標
 (西面) 千葉県庁 廿三里廿三町拾六間
 東京 三拾四里七町八間
 印旛郡佐倉町 廿八里七町六間
 (北面) 那古町工六町五間
 富浦村工一里拾二町五間
 八束村工拾五町四拾間
 (東面) 明治廿六年四月平郡船形村
 (南面) 安房郡北条町工一里八町廿五間
 平郡勝山町工二里五町廿五間
 安房郡和田町工四里廿一町五間
 朝夷郡和工四里廿一町五間

C



- A:道標**
- ②那古 那古寺観音堂脇階段途中
 - ④那古 バイパス交差点南東
 - ⑤正木 正木上バス停そば
 - ⑥湊 パチンコ店裏住宅街
 - ⑦八幡 十字路
 - ⑩博物館 屋外展示場
 - ⑪ //
 - ⑭塩見 松の堂
 - ⑮神余 上ノ台集会所
 - ⑲佐野 房州カントリー裏の山中
 - ⑳東長田 観音院東方の山中
 - ㉑作名 作名浄水場手前の路傍
 - ㉒国分 国分郵便局の三叉路脇
 - ㉓稲 稲村バス停橋交差点
 - ㉔二子 安養寺内墓地
 - ㉕園 水玉バス停付近崖下
 - ㉖竹原 相賀の山中(加茂坂)
 - ㉗山萩 小松寺への旧道山中
 - ㉘水岡 千倉への旧道山中
- B:里程標**
- ①船形 ドンドン橋脇
 - ⑧沼 西の浜集会所
 - ⑨館山 館山地区公民館
 - ⑬下真倉 自転車店付近
 - ⑰大戸 大円寺前高台
- C:道路元標**
- ③那古 那古郵便局向い
 - ⑫博物館 屋外展示場
 - ⑬見物 西岬村役場跡入口
 - ⑭布良 布良崎神社鳥居前路傍
 - ⑮大石 旧神戸小学校通用門脇